

阿部正敏と正識まさつね、老中の家の葛藤

忍藩主阿部家の当主は忠秋から正允まさひかまで五代続けて幕府の老中に就任しました。これにより当主が幕府の要職に就くのは阿部家の伝統ともいえるようになり、正允の跡を継いだ正敏も幕府内での出世を目指し、要職就任を幕府に働きかけました。その甲斐があつてか天明4年(1784)に大坂城代に就任しましたが、このとき、幕府の老中や大奥の老女たちに渡した就任の礼金や贈答品の記録が残されており、その金額は合計1千265両となっています。

また、正敏は藩祖である忠秋の顕彰を行うため、忠秋を貞徳霊神として神格化し、忍城二の丸に社を建立し、御神体として忠秋が着用した具足を祀りました。大名家では先祖の顕彰を行うことは自らの領主としての地位の正当性を確認することにつながります。阿部家では譜代大名として揺るぎない地位を築いた忠秋の功績が顕彰の対象となったのでしょうか。

しかし、幕府内での出世や大坂への赴任の費用に加えて、天明3

年の浅間山大噴火と天明の飢饉により藩領内は疲弊していました。このような状況下で、正敏の行いに真つ向から異を唱えたのが世子の正識です。正識は天明6年に意見書を作成し、その中で現在の藩政は出世と神仏のみに関心があり、家臣や領内のことを顧みず、藩の人事に幕府の介入があると厳しく批判しました。さらに、自分は幕府内での出世には関心がなく、役職には就任しないとも記しました。老中就任が阿部家の伝統ともいえる中で、正識の行動は藩内で相当の軋轢あきまじを生んだことでしょう。

正敏は大坂城代在任中に死去したため、阿部家の老中就任は途絶えました。正識は藩主を継ぐと宣言どおりに幕府の役職には一切就任しませんでした。歴代の当主の中で一際異彩を放つ存在ですが、それは藩政を真剣に考えての行動でもあったのです。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)



阿部正識書五言絶句「桂尊迎帝子」

はじめまして



平成31年2月生まれのお子さんを募集します

- 12月1日(日)～27日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、1月6日(月)午前11時から市役所307会議室で公開抽選を行います。



平成30年12月生まれのおともだち



田畑 橙空とあちゃん
平成30年12月26日生まれ
父・友樹さん 母・陽子さん
「わが家の元気印(๑) 大きくなあれ！」



鈴木 柊翔しゅうとちゃん
平成30年12月3日生まれ
父・巧さん 母・章絵さん
「お腹の傷は柊翔が頑張った証 生きてくれてありがとう」



長谷部 実希みきちゃん
平成30年12月10日生まれ
父・寿光さん 母・悦子さん
「希望いっしょに元気よく♡」



下見 優月ゆうつきちゃん
平成30年12月29日生まれ
父・駿太さん 母・春香さん
「我が家の癒し 大きくなあれ！」



小林 美緒みおちゃん
平成30年12月26日生まれ
父・寛之さん 母・晴子さん
「かわいい笑顔をありがとう」



金沢 百陽ももはるちゃん
平成30年12月8日生まれ
父・真純さん 母・明日香さん
「金沢家のアイドル! 健康第一!」

今月の表紙

11月16日・17日、行田グリーンアリーナで宝くじスポーツフェア「はつらつまママさんバレーボールinぎょうだ」が開催されました。

川合俊一さん率いる元バレーボール日本代表選手らで構成するドリームチームが招かれ、市内のママさんバレーチームとの親善試合などが行われました。会場からは、力強いスパイクやブロックが飛び出すたびに大歓声が沸き起こっていました。

● 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

● 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

● 市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい 植物油インキ

市報ぎょうだは 再生紙を 使用しています